

「二十歳の節目に寄せて」

本来ならばこの決意表明を一月の成人式にお伝えするはずでしたが、新型コロナウイルス感染拡大により、延期となりました。それでも、私達の二十歳という人生の節目の機会を何とか記念に残そうとご尽力いただき、本日このような式典を開催していただきましたこと、長野市長様はじめ、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。本日、私は残念ながら諸用により欠席となりますが、コロナの終息を願うとともに、またみなと笑顔で会えることを楽しみにしております。

昨年からのコロナ感染の危機は、世の中に大きな不安とダメージを与え、今もなお、感染拡大予防のため、医療関係者の皆様はもとより、社会を動かす根底が覆されている中、多くの方が知恵をしぼり、努力されている姿に、日々感謝の気持ちでいっぱいです。

今まで当たり前のようにできていた、人と会って話をする、学校生活を送ること、旅行に行くこと、そのどれもがコロナによって価値観が変わり、先が見通せない時代となってしまいました。同時に、世界中で、音楽やエンターテインメントの楽しみが奪われる淋しさを感じました。発表の場を失い、残念に思う方々も多くいたことでしょう。今の時代は、オンライン、リモートを用い、授業の場や発表の機会が増えましたが、それでも人と直接触れ合い、協力し合うことはとてもかけがえのないことです。このように今まで気づかずにいた、大切にすべきことがたくさん見えてきました。まだ何年かは、この未曾有の戦いが続き、経済面・精神面においてもダメージがあるでしょう。しかし、この変化の時だからこそ、何が大切かを考え、少しでもできることを行動することが、わたしたちに求められていることだと思います。

一昨年は、長野市を含め多くの地方が台風の被害を受けました。そんな中でも、前を向いて助け合っている人々の姿に感銘を受けるとともに、秋には水害に遇った林檎もたわわに実をつけ、その生命力の強さに驚かされました。大学生活で長野県を離れた自分にとって、長野で慣れ親しんだ環境や文化、温かなつながりは、自分を支えているかけがえのないものであると感じています。自分の未熟さを実感することが多く、すぐに社会のために行動できることは少ないかもしれません。しかし、置かれた立場、状況の中で何ができるかを考え、努力を積み上げ、逆境を乗り越えた林檎のように実をつけていきたいと思います。

最後になりますが、今後も、家族や先生方をはじめ今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、人とのつながりを大切に進んでまいりますことを心に誓い、新成人代表の言葉とさせていただきます。

新成人代表 村田果穂